

文部時報

昭和五十六年三月
第一二四六号

第九十四回国会(常会)における文部大臣の所信……………62

特集 私立学校教育

大学教育における私学の役割……………石川 忠雄 4

▽座談会

これからの私学に期待する……………9

(出席者) 大木金次郎・村山 松雄・佐久間 彊

楠山三香男・八司会▽瀧澤 博三

私立大学の課題……………小寺武四郎 23

私立高等学校の現状と振興対策……………堀越 克明 29

私立幼稚園の現状と当面する諸問題……………森上 史朗 36

私立専修学校の現状と今後……………大沼 淳 42

▽資料

私学の発展と私学助成の推移

……………管理局企画調整課・私学振興課 52

随想

黒板勝美先生と歴博……………

井上 光貞 49

難民と日本語教育……………

大家 重夫 76

生涯教育と中等後教育

飯島 宗一 67

連載第6回

国民生活とエネルギー

生物エネルギーの利用と開発……………

山本 武彦 89

●海外教育ニュース……………大臣官房調査統計課 78

学校保健統計調査結果を公表……………

高まる片親家庭児童への教育的関心(アメリカ合衆国)／マンチェスター市、中等教育の前・後期分離の全面实施を決定(イギリス)／

大臣官房調査統計課……………85

教員養成の改革(西ドイツ)／引き続き留学生を派遣することを確認(中国)

絵 画 ●小出楯重 裸女と白布 (岩崎吉一)

●文部省のまじり

文化財 ●銅製玉塔形経筒 (三輪嘉六)

高等学校における今後の職業教育の在り方

■次号目次……………95

について理産審に諮問……………

文部時報昭和五十六年度特集テーマ……………95

……………初等中等教育局職業教育課……………82

……………表紙 林美紀子 カット 内部敬生

私は一九七八年の春、定年退官によって東京大学文学部国史学科を去り、国立歴史民俗博物館（歴博）の設立準備を、室長としておひきうけすることとした。そのときはじまった千葉県佐倉城址の博物館の建造も二年半で竣工して、室員はここに移った。当初は一室に計一〇人の世帯も、今年四月から三〇人になる。少し時間をかければ予定の一一〇人の世帯が成立するだろう。

博物館は研究機関を兼ねるべきだというのが、こんにちの世界的傾向である。私は歴博の将来のために、大阪の千里にできた国立民族学博物館（民博）と同じ型の国立大学共同利用機関にして欲しいことを関係者に願っていた。幸い、学術審議会などを含め、関係省庁の御理解を得ることができた。この四月には国立大学共同利用機関として、国立歴史民俗博物

黒板勝美先生と歴博

井 上 光 貞

館が正式に発足する予定である。いかなる研究機関を作るか、研究中である。

国立の歴史博物館を作りたいという夢を最初にもたれたのは、一九三五年に定年退官されるまで東京大学文学部国史学科の教授だった黒板勝美先生であった。東博の前身の東京帝室博物館は本来、歴史部門をふくんでいたのに、現実には美術博物館になってしまったので、それとは別に国立の歴史博物館を作る必要があるとして「国史館」を構想された。そこで、一九四〇年におこなわるべき紀元二千六百年記念事業の一つとして、先生はその構想を提案された。そして定年の翌一九三六年（二・二六事件の年）、一月ごろにそれが採択された。

残念なことにその後、黒板先生は脳溢血でおられ、そのためもあってこの案は立ち消えになった。しかしその構

想は、先生の高弟の一人、丸山二郎氏によれば（仮称国史館『古文化の保存と研究』一九五三年、所収）。

一 図書文献、記録・古文書類の調査と蒐集、その保存と普及

二 古墳を初め建築址其の他一般史蹟の考古学的調査と発掘

三 日本歴史上における重要な課題の協同的研究

四 日本文化の歴史の変遷を正しく平易に解説して公開普及

となつている。こんにちからみてもりっぱな構想である。

先生の夢は、高弟で戦後ながく東京大学文学部国史学科の主任教授だった坂本太郎先生にひきつがれた。先生は一九六八年におこなわるべき明治百年記念式典の事業について諮問をうけたとき、恩師の夢をうけついで、「国立歴史博物館」



の設立を申しでられ、採択された。こんにちの国立歴史民俗博物館の直接のおこりはこれである。先生は設立準備委員会の長となりいままその任にある。ただ、計画が遅々として進まないのので、七八年以後、先生の弟子にあたるわたくしが準備室長となり、館の設立のお世話をしているのである。

先日、ある学術雑誌で、先生と京都国立博物館（京博）館長の林屋辰三郎氏と私の座談会がおこなわれた。先生は席上、井上君の共同利用機関構想は黒板先生の念願されたものとよく似ているといつて前記の四項目を披露された。改めて熟読するとそれは、「歴史・考古・民俗の協業にもとづく協同研究と、その上につつ博物館」という私の構想と実によく似ている。私は黒板先生の構想を読んでじぶんの構想を建てたのではなかったに

丸山氏は、

もかかわらず熟読してみると精神が同じであるのにおどろかされるのである。私は黒板先生に教えをうけたことにはなかつた。ただ一回だけ、「国史館」構想が採用された一九三六年、しかも先生が脳溢血でたおられる直前、先生の声咳に接した。それは青山会館でおこなわれた徳富蘇峰の文章報国四十年の記念講演会のとぎで、黒板先生は官学の立場から在野史家、蘇峰の学徳をたたえる講演をされたのである。先生はたしかそのあと汽車で高崎にたち、その旅で脳溢血でたおられたのであった。

わたくしは黒板先生の夢を坂本先生からうけついでその実現をはかっているのだが、坂本先生から井上の歴博構想は黒板先生の考えを生かしたものだといっていたと、あの日の黒板先生の講演の姿がほうふつとしてよみがえってくる。



「先生の案が最終的に第一案に決したのは昭和十一年十一月五・六日頃の事と記憶している。その決定の翌日朝、私が先生の御宅に行ったところが、先生は『通ったぞ……通ったぞ……』と連呼された位であった。然るに其の後数日にして先生は旅行の途次発病（十一日井上）されてしまった」と書いておられる。これをみると、講演のころ、黒板先生が国史館構想への情熱で満たされていたことはたしかである。わたくしはその講演のときに、先生から靈託をうけたのではなかったかというような錯覚をさえ覚える。

（国立歴史民俗博物館創設準備室長）

▽最近では、私学の問題は「私学の助成」という観点から取り上げられることが多い中で、本号は私立学校教育の特集としました。

▽現在、大学生の七七％は私立大学生ですが、専攻分野別に見るとどうなっているでしょうか。社会科学専攻学生の九〇％、家政の八九％、人文科学の八七％、工学の七一％などが私大生の比率の高い分野であり、逆にその比率が比較的低いのは、教育三四％、農学五一％、医歯五四％、理学五七％などとなっています。

▽また、これを大学の著しい量的拡大の始まる直前の昭和三九年の状況と比べた構成比の変化を見ますと、教育は一四％から三四％へ、医・歯学は四〇％から五四％へ増加しているのが目立ちます。

▽三月は入学試験の季節ですが、昨年の春、私立大学を志願した延べ生徒数は二二三万八千人余で、大学全体の延べ志願者総数の八八％となっています。

▽私立学校の位置づけ、役割は、特色ある建学精神の存在と学校教育の中における私学の占める比率の大小で説明されることが多いのですが、右のような数字も私学の特徴をよく語っているように思われます。

▽次号は五六年度文教行政の展望を特集します。
(企画室)

MEJ 61 月刊 「文部時報」 3 月号 第1246号

著作権
所有

文 部 省

昭和56年3月5日 印刷
昭和56年3月10日 発行

発行所 株式会社きようせい

定価 200円 (〒50円)

本社 東京都中央区銀座7丁目4番12号

年間購読料 2400円 (〒共)

(郵便番号 104)

(営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地

(郵便番号 162)

電話 東京 (268) 2141 (代表)

振替口座 東京9-161番

印刷所 株式会社行政学会印刷所

- ・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます
- ・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店をお願いします